（別紙様式４）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和2年11月1日※1
（前回公表年月日：令和 元年10月１日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
国際外語・観光・エアライン専門学校	平成3年10月8日	栗林　直子	〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通7番町935 （電話）025-227-6330
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人 国際総合学園	平成3年10月10日	池田　祥護	〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通2番町541 （電話）025-210-8565

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
分化・教養	分化・教養専門課程	アジア言語科	平成26年文部科学省 告示第6号	－

学科の目的	学校教育法に基づき、生徒に対し専門技能及び実生活に必要な能力を育成する。また、文化教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする。
認定年月日	平成28年2月29日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	1,836時間	972	626	238	0	0 時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
75	67	0人	1人	16人	17人

学期制度	■前　期：4月　1日　～　7月31日 ■後　期：9月　7日　～　1月29日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 出席、授業態度、提出物、実習・演習の成果、学期末試験の履修状況を総合的に勘案し、成績評価を行う。また、80%の出席率に達しないものは科目評価を受けることはできない。評価: A(秀)B(優)C(良)D(可)F(不可)
長期休み	■学年始：　4月　1日 ■夏　季：　8月　1日　～　8月31日 ■冬　季：12月20日　～　1月　8日 ■学年末：　3月31日	卒業・進級条件	【進級条件】①1年次の出席が良好であること。(80%以上)　②科目評価が全てD以上であること。　③進級に必要なCFPポイントが基準以上であること。　④学費、実習費、その他の必要な納入金を全て納入していること。　⑤その他、生活行為において問題がないこと。 【卒業条件】①2年次の出席が良好であること。　②全年次の科目評価が全てD以上であること。　③卒業基準検定を取得していること。　④CFPポイントが基準以上であること。　⑤学費、実習費、その他必要な納入金を全て納入していること。　⑥その他、生活行為になどにおいて問題がないこと。
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 学習未達の学生や欠席が多い学生に対し、次の支援を行っている。 ①担任によるカウンセリング体制　②保護者との連携（電話での状況報告、来校による面談）　③スクールカウンセラーの活用　④学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施。	課外活動	■課外活動の種類 明和義人祭運営ボランティア、新潟日米協会主催こども英語イベント実施及び運営スタッフ、新潟総踊り運営ボランティア ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和元年度卒業生） 航空業界、ホテル業界、一般企業、他 ■就職指導内容 業界と職業の知識と理解、業界情報収集と企業研究、就職試験受験のマナー、社会人マナー教育、面接対策、SPI強化、他 ■卒業者数　29　人 ■就職希望者数　28　人 ■就職者数　28　人 ■就職率　100　% ■卒業者に占める就職者の割合 ：　96.6　% ■その他 ・進学者数　1　人 ・進学先 (韓国)仁荷工業専門大学　航空経営科 （令和　元 年度卒業者に関する 令和2年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報） 資格・検定名 / 種別 / 受験者数 / 合格者数 ﾊﾝｸﾞﾙ能力検定試験準2級 / ③ / 21人 / 10人 ハングル能力試験3級 / ③ / 29人 / 26人 TOPIK6級 / ③ / 29人 / 2人 TOPIK5級 / ③ / 29人 / 7人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄
中途退学の現状	■中途退学者　4 名　■中退率　5 % 平成31年4月1日時点において、在学者73名（平成31年4月1日入学者を含む） 令和2年3月31日時点において、在学者69名（令和2年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 1）スクールカウンセリングの導入　2）定期的な担任との面談　3）保護者との連携（電話での報告、来校による面談）　4）学科長面談		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有 ・NSGカレッジリーグ無利子奨学制度（高校新卒・高校新卒以外） 家計の事情のより就学が困難と思われる学生に対し、奨学金を貸与し、卒業後5年以内の返済期間を設けることにより就学の便を図るもの。 ・災害奨学融資制度 災害にあい、学費の準備が困難な方に対して夢を叶える為の進学を応援する制度。 ・母子家庭・父子家庭奨学金制度 母子・父子家庭の事情等により、一年次学費の準備が困難と思われる学生に対し、奨学金を貸与し卒業後の長期の返済により就学の便を図るもの。 ・一人暮らし支援制度 新潟県外、および新潟県内で一人暮らしをされる方を対象に入学後の学費を支援するもの。 ・NSGカレッジリーグ　SR制度（Student Recruit） 本校を受験する本人の兄弟姉妹、家庭が本校もしくはNSGカレッジリーグの各校を卒業したか、または在学中である場合、その受験する本人に対して特典を与えるもの。 ■専門実践教育訓練給付：　給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		

第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）
当該学科のホームページURL	https://www.air.ac.jp/asia

（留意事項）
1．公表年月日（※1）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3．主な学修成果（※3）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

社会で活躍できる人材、企業が求める人材を育成するため、職業に必要なスキルを身につけ専門分野における能力を向上させる為、企業や協会が委員として参画し教育課程の編成において企業・協会との密接な連携により、より実践的な職業教育の指導を行う。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業と密接、かつ組織的な連携体制の下、より実践的で専門的なカリキュラム改善を目的とする。また、変わりゆく業界の動向や業界ならではの最新の情報を提供して頂き業界のニーズと現状を取り入れた授業を行うため、教育課程編成委員会を実施を開催する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和　2年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
関根　伸春	新潟日米協会　専務理事	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日（2年）	①
平山　美果	通訳案内士　韓国語	令和　2年4月　1日～ 令和　4年3月31日（2年）	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

教育編成委員会（年2回）9月、3月

（開催日時（実績））

第1回　令和元年　9月27日（金）　14：00　～　16：00
第2回　令和2年　3月27日（金）　14：00　～　16：00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

■学科の使用教材についての提案

アジア言語科設置当初から多くの韓国語語学教育機関で使用している延世大学の教材を使用され、語学教育で大切な文法を中心に授業をやられてきたとうかがっている。貴校の今後の方針として「話す力」を重点において授業展開を考えられているのであれば、既にご存じで、内容の確認もされていることと思うが、ソウル大学が出版している教材を検討されてもよいのではと思う。内容についても、以前のものより、学生の興味が沸くような形式となっていることからも、お薦めできるとのご提案を頂き、学科内で検討した結果、学生目線から見て、興味を持って取り組めることと、指導者からみても使用し易く、次年度から導入することに決定した。

■一般教養として、SDGsの導入について

語学能力の向上と共に、一般教養の習得も必要となってくる。その対策としても、今後は世界基準で物事を考え、問題解決を行うなど、日本企業は勿論、世界中の企業も取り組んでいるSDGsに係わる授業を導入することを提案したい、とのご意見のもと、異文化理解の授業において、韓国と日本との比較をしながらSDGsに係わる課題をシラバスに組み込み事とした。内容としては、研究対象を韓国に移し、韓国語で書かれレポートやニュース記事、インターネットサイトなどを読み込み、韓国での問題点を提示する。また、現在韓国が国としてどのような改善点を見出しているのかを調べ日本と韓国のＳDGsの問題点の相違や取り組みの違いなども調査する。
隣国の韓国の取り組みについて知識を深め、かつ日本の取り組みを客観的に捉えらてもらうことを目的とし、授業を組み立てることに決定。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業、協会、通訳案内士が委員として参画し職業に必要な知識と能力を身に着ける為、教育課程の編成において、当該企業等の密接な連携により、より実践的な演習の基、質の確保を行う。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

語学を活用してガイドを行うためのマナー、説明のポイント、知識、まとめ方等をご指導いただく。学んだ知識を活用し、実際に得た知識と学んだことを活用し、ツアーガイドとして演習を行い、その演習の成果を評価していただく。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
ツアーガード概論	外国人観光客に日本の魅力を伝えるために何が必要なのかを考える。また、インバウンド観光について考察し、地元新潟に外国人観光客が来た際にどのように案内するのか学び、演習を行う。 その際に、一般財団法人　北方文化博物館　副館長よりご協力を頂き、外国人が多く訪れる北方文化博物館の歴史を学び、外国人旅行客に伝えるべき文化、歴史及び通訳ガイドの基本とポイントを学び演習を行う。	一般財団法人　北方文化博物館

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

・職員は質と技術の向上を目的に学校が行う教育研修に積極的に参加しなければならない。
・職員は学校が行う教育研修等に積極的に参加しなければならない。
・職員は学校から外部研修について受講を命ぜられた時は積極的に受講しかつ復命しなければならない。
・職員は学校から命ぜられて受講した研修については業務に有効活用しなければならない。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「韓半島平和プロセスと北東アジア共同繁栄」（連携企業等：駐新潟大韓民国総領事館　）
期間：令和元年６月２８日（金）　　対象：一般
内容：北朝鮮と韓国の現状　・アメリカと北朝鮮の関係と今後　　・日本と朝鮮半島の今後について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「未来の先生展2019」（連携企業等：未来の先生展2019実行委員会　）
期間：令和元年9月15日（日）　　対象：一般
内容：時代を切り開く「探求の力」を育む・これまでの学校、これからの学校一学校教育における不易流行をつむぎ出す

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「新潟発　日韓外交　」（連携企業等：　駐新潟大韓民国総領事館）
期間：令和２年10月14日（木）　　対象：一般
内容：新潟の韓国外交の現状と未来について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「未来の先生フォーラム2020　　」（連携企業等：未来の先生展　実行委員会　）
期間：令和２年11月23日（日）　　対象：一般
内容：新型コロナウィルスを経て社会と学校にあぶり出された本質とは。日本の社会と学校がどのように変わりどのように未来を築いていくべきか。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」11項目について自己評価を行い、その自己評価を基に学校関係者評価委員会議をし評価・意見を受け、改善・向上を図る。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	1）教育理念・目標
（2）学校運営	2）学校運営
（3）教育活動	3）教育活動
（4）学修成果	4）学修成果
（5）学生支援	5）学生支援
（6）教育環境	6）教育環境
（7）学生の受入れ募集	7）学生の受け入れ募集
（8）財務	8）財務
（9）法令等の遵守	9）法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	10)社会貢献・地域貢献
（11）国際交流	11)国際交流

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

【委員の意見】
県内、県外、更には国内だけでなく、海外でも多くの卒業生が活躍されている。卒業生のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用してもよいのではないか。実際に様々な分野で活躍されている卒業生がいらっしゃるのであれば、卒業生を招いてのセミナーを開催し、在学生の職業教育に活かしてみてはどうか。

【活用状況】
在校生の職業教育を目的に、就職研修の一環として様々の分野で活躍する多くの卒業生を招いたセミナーを実施することとした。また、卒業生からの意見を取り入れ、時代と共に変わりゆく専門的分野での必要知識等を今後のカリキュラム改善の目的の一つとした。

【委員の意見】
「社会貢献・地域貢献」
・毎年、新潟市、福祉施設、団体からボランティア活動の依頼を頂いているとのことで、学生の学びや関連する専門分野での活躍ができることは学生達にとっても経験と刺激になるであろう。依頼をもらうだけでなく、学校側からのアプローチをしてもよいのではないか。

【活用状況】
委員より、依頼をもらうだけでなく、学校側からのアプローチをしてもよいのではないか、との意見を頂いた。社会貢献・地域貢献の考え方として、これまでは実際に学生が出向いての活動で地域、社会貢献を行っていたが、SDGsの取組により、世界について考え学生達が問題解決方法の提案による貢献の仕方もあるとのご意見を頂き、次年度から授業の一つとして全学科で取り組むこととした。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
関根　伸春	新潟日米協会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日（2年）	企業委員
山田　智之	一般社団法人　魚沼市観光協会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）　）

URL:　https://www.air.ac.jp/wp-content/themes/air2017/file/kankei_hyouka_2019.pdf
公表時期：令和2年　7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
「専門学校における状況提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、教育活動の活性化、学校運営の円滑化、進路選択に当たっての有効な情報の提供、就職指導における企業等との連携の充実、教育内容の改善、学校運営に対する支援の確保、社会に対する理解の増進をねらいとし、必要な教育活動、その他学校運営の状況に関する状況を提供す

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	（1）学校基本情報 － 学校概要 、目標
（2）各学科等の教育	（2）学科紹介
（3）教職員	（3）講師紹介
（4）キャリア教育・実践的職業教育	（4）キャリア教育・インターンシップ
（5）様々な教育活動・教育環境	（5）充実の国際交流・海外留学 ／ 施設紹介
（6）学生の生活支援	（6）学生支援体制
（7）学生納付金・修学支援	（7）入試について － 年間学費・諸費用
（8）学校の財務	（8）財務諸表
（9）学校評価	（9）学校関係者評価
（10）国際連携の状況	－
（11）その他	－

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

URL:　https://www.air.ac.jp/

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程　アジア言語科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1		○		English Strategy TOEIC730突破	TOEIC730点以上取得を目標とする。実際の問題となるリスニング、文法、読解を中心に問題を解きながら解説を行い、目標達成のためのスキルを向上させる。	1・2通年	170		△	○		○		○	○	
2		○		English Strategy TOEIC650突破	TOEIC650点以上取得を目標とする。実際の問題となるリスニング、文法、読解を中心に問題を解きながら解説を行い、目標達成のためのスキルを向上させる。											
3		○		English Strategy 英検2級取得	英検２級取得を目標とする。実際の問題となるリスニング、文法、読解を中心に問題を解きながら解説を行い、目標達成のためのスキルを向上させる。											
4	○			Speaking Ⅰ	簡単な日常会話表現を学び、英語でのコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1通年	68			○		○		○		
5	○			韓国語Ⅰ（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	生活に必要な基礎的な言語を駆使し、身近な話題の内容を表現できる。また、銀行や交通機関などに必要な会話ができることを目指す。	1通年	68			○		○		○	○	
6	○			韓国語Ⅰ（文法）	時制や尊敬、数字、あいさつなど身の回りのことを表現できる文法を習得する。	1通年	68		○			○		○	○	
7	○			韓国語Ⅰ（読解）	看板や簡単な案内文、注意事項などを読んで理解できる読解力を養う。	1通年	51		△	○		○		○	○	
8	○			韓国語Ⅰ（聴解）	公共機関で流れるアナウンスや身近な話題を聞き取れる聴解力を習得する。	1通年	51		△	○		○		○	○	
9	○			韓国語 文章表現	初中級の語彙と文法を用いて意思を文書で表現する力を身に着ける。	1後期	17		△	○		○		○	○	
10	○			韓国語 検定対策Ⅰ	韓国語能力検定（TOPIK）・ハングル検定取得に必要な単語を修得し、文法理解と読解力を身に着ける。数多くの練習問題を解き、解説を基にテストスキルの向上を図る。	1通年	68		△	○		○		○	○	
11	○			韓国社会と文化	韓国の衣食住、大衆文化を中心に韓国の基本的な文化、背景を学び理解する。また、現代社会が抱える問題を理解し、ユースや新聞での行現方法や新語・流行語を学ぶ。	1通年	68		○	△		○		○		
12	○			韓国語発音セミナー	韓国語の基本的な発音を理解し、習得する。鼻音化、流音化など日本人学習者が苦手とする発音を重点的に練習する。	1通年	34		△	○		○		○	○	

13	○			キャリア デザイン論	個々の将来の職業と生き方について考え、目標を設定する。その目標達成のために何をすべきなのか考える。	1 前期	17		○			○		○		
14	○			ツアーガイド 概論	外国人観光客に日本の魅力を伝えるために何が必要なのかを考える。	1 後期	17		△	○		○		○		○
15	○			異文化理解 入門	異文化コミュニケーションの正しい知識を身に付け、多文化共生社会をになう中心的人材に成長することを目指す。	1 前期	17		△	○		○		○		
16	○			リクルート メイク実習Ⅰ	清潔感のある就職面接に適したメイクの基礎を学ぶ。	1 通年	68		△	○		○			○	
17	○			PC実習Ⅰ	Microsoft Office技能習得： Word,　PowerPointの３級を取得するための対策授業	1 通年	68		△		○	○			○	
18	○			ビジネスマナー 演習	お辞儀・挨拶の仕方や敬語の使い方など基本的なビジネスマナーを習得する。	1 通年	34		△	○		○		○		
19	○			就職実務Ⅰ	①就職活動の心構え、就職活動の流れを理解する。 ②自己分析を行い、自己を知った上で自己PRの作成とエントリーシートの書き方を学ぶ。	1 通年	34		○	△		○		○		
20	○			English for HospitalityⅡ	英語でおもてなしの表現を学ぶ。ショップ、レストラン、受付等での基本的な会話を身に着ける。	2 通年	68		△	○		○			○	
21	○			韓国語Ⅱ （ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	ニュースや新聞の内容や韓国の文化・社会的背景を会話に取り入れｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図ることができることを目指す。	2 通年	68			○		○		○	○	
22	○			韓国語Ⅱ （文法）	ニュースや新聞を理解する上で必要な文法や、ビジネスで使用する改まった表現を身に付ける。	2 通年	68		○			○		○	○	
23	○			韓国語Ⅱ （読解）	新聞やインターネットニュース、評論文や解説文を理解し、社会・文化背景を読み解くことができる。	2 通年	34		△	○		○		○	○	
24	○			韓国語Ⅱ （聴解）	ニュースを聞き取り理解することができ、電話でのやりとりや、音声案内、公共アナウンスの理解を目指す。	2 通年	34		△	○		○		○	○	
25	○			韓国語 検定対策Ⅱ	韓国語能力検定（TOPIK）・ハングル検定取得に必要な単語を修得し、文法理解と読解力を身に着ける。数多くの練習問題を解き、解説を基にテストスキルの向上を図る。	2 通年	68		△	○		○		○	○	
26	○			時事韓国語	韓国で話題になっているテーマについてその背景を理解し、そのテーマについて討論または意見を文章で表現することを身に付ける。	2 後期	17		○	△		○			○	
27	○			韓日 翻訳演習	翻訳を通じ韓国語と比較した場合の日本語の特徴に注意し、翻訳をすることで韓国の文化的背景、社会的背景なども含め文の内容を深く読み取る。	2 後期	17		△	○		○		○	○	

28	○			韓国語 読解特講	韓国語能力試験上級対策として長文の速読能力を身に着ける。試験頻出問題の時事用語や社会問題の背景を理解し、迅速かつ正確に文書を理解することを目標とする。	2 通 年	34		△	○		○		○	○	
29	○			ビジネス 韓国語	ビジネスシーンでよく使う言い回し、お客様を案内する韓国語のフレーズや電話応対、会社訪問、ビジネスメール等を習得する。	2 通 年	34		△	○		○		○	○	
30	○			視聴覚 韓国語	ドラマのワン・シーンをスキットにして、使われた表現を中心に実践的なシュチュエーション・プレイを行う。また、ドラマの中での社会問題についても考察し、様々な文化の違いなども理解する。	2 前 期	17		○	△		○		○	○	
31	○			韓国語 ｵｰﾗﾙﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ	韓国語のアナウンス原稿やニュース原稿などまとまった文章を音読し、自然な韓国語の発話を身に付ける。	2 通 年	34		△	○		○		○	○	
32	○			リクルート メイクⅡ	１年次で学んだメイクの基礎をもとに印象が良いメイクの実習。	2 通 年	34		△		○	○			○	
33	○			PC実習Ⅱ	Microsoft Office技能習得： PowerPointプレゼンテーション技能検定試験初級を取得するための対策授業	2 通 年	68		△		○	○			○	
34	○			就職実務Ⅱ	企業研究、企業受験の際の面接試験対策を基本とする。また、社会人マナー、ビジネスマナーも学ぶ。	2 通 年	34		△	○		○		○		
35	○			ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ概論	就職活動に必要な自己分析、書類作成、面接指導を行う。	2 通 年	34		○			○		○		
36	○			ツアーガイド 演習	ガイドとして仕事をする上で必要な地理、歴史、日本文化について学ぶ。また、インバウンド観光について考察し、地元新潟に外国人観光客が来た際にどのように案内するのか学び、演習を行う。 その際に、一般財団法人　北方文化博物館　副館長よりご協力を頂き、外国人が多く訪れる北方文化博物館の歴史を学び、外国人旅行客に伝えるべき文化、歴史及び通訳ガイドの基本とポイントを学び演習を行う。	2 前 期	17		△	○		○	○	○	○	○
37	○			初級中国語	四声とピンインを学び、中国語で自己紹介と挨拶と簡単な会話を学ぶ。	2 通 年	68		△	○		○		○	○	
合計					37科目	1,836単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	２　期
	１学期の授業期間	１７週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。